

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/

発行者 眞壁 博美

2017.4.15 第321号

つくしだより



平成29年4月号

遂に届いた精神障害者の声

都議会本会議最終日(3/30)で

マル障請願全会一致採択!

医療費助成実現に大きく前進!

都連副会長 植松和光

昭和49年に制度化された東京都重度心身障害者医療費助成制度に関しては、東京つくし会を始めとする精神障害者関係団体が40余年にわたり、精神障害者にもこの制度を適用する要望を東京都に行ってきたが、首を縦に振ることはありませんでした。しかし、今度こそその思いです。

今回、都議会は昨年12月13日に東京つくし会が都議会に提出したマル障(重度心身障害者医療費助成制度)を精神障害者も対象にする請願が2月17日(金)の都議会厚生委員会で全会一致で採択したのに続き、3月30日の都議会本会議においても全会一致で採択されました。まさに、この日を待っていました。先輩たちの心を受け継ぎながらこの日を待っていたのです。

●拳を握り締め傍聴席から審議を見守りました!

傍聴席には、東京マル障の会の会

長に加藤真規子さん、東京つくし会眞壁会長等役員や地域・病院家族会会員、事業所支援者、当事者皆さん等沢山の方が固唾を飲んで都議会議場を見下ろしていました。議長から、追加日程請願39件の一括上程があり(請願名 28第51号 精神障害者を東京都重度心身障害者医療費助成制度(マル障)の対象とすることに關する請願)も採択されたのです。まさに万感の思いでした。

●区市町村議会にもマル障の精神障害者を対象にする陳情書提出!

各議会で相次いで採択!

都議会への請願書提出と同時に区市町村議会議長に対し、精神障害者を東京都重度心身障害者医療費助成制度(マル障)の対象とすることの陳情書を提出しました。その後、立川市、国立市、西東京市、武蔵村山市等の議会で採択されています。今更に加えてくると思います。

●これからの私たちの活動!

さて、東京都の精神障害者保健福祉手帳を所持している方は1級5、687名、2級44、942名、3級38、552名、合計89、18

1名(平成27年7月現在東京都福祉保健局調べ)です。

今、多くの精神障害者がこの制度が早く実施されることを待ち望んでいます。多くの精神障害者は身体に悪いところがあってもお金が無くていけない、虫歯になっても痛みを我慢するなどとても辛い日々を過ごしているのです。医療費の事を考えずに病院に行きたいと切に願っています。そして、一日でも健康で長生きをしたい!

●これからの活動!

このような切実な願いを早急に実現して行くために、私たち東京つくし会は他障害の方と同じ制度を受けられるよう、東京都に求めていく活動を進めていきます。

皆様の引き続くご支援、ご協力をお願い申し上げます。

都議会各会派の皆様

本当に有難うございました!

皆様のご支援に感謝申し上げます。



「平成28年度第3回東ブロック会議」

都連副会長 松沢 勝

3月5日(日)の午前は相談員養成講座
午後はブロック会議のスケジュールで、11単
会22名の参加者でした。

相談員養成講座のスーパーバイズは前回
に引き続き羽藤先生にお願いして、3つの
事例を中心に進行しました。最初の事例では、
社会的に孤立し、経済的に行きづまった親子
の社会的支援を中心に議論しました。障害年
金と生活保護の順序では、年金を貰ってから
生活保護を申請した方が良いとの経験談が披
露されました。その他の事例では菓の飲み
方につきいわるCP(クロールプロマジン)
換算で議論することが必ずしも正しくない
との指摘を先生から受けました。

午後の部のブロック会議では、川崎副会長
に参加して頂き①マル障問題②東京つくし
会財政問題を議論しました。マル障問題は、
今後の制度の設計と予算化が大きな問題と
なる旨の説明がありました。

次の②財政問題では、現在の財務状況と今
後の予想を色々なシミュレーションを想定
して、熱心な議論を展開しました。今後数年
かけて全体の足並みを見ながら議論をする
第一歩となりました。次回は8月6日(日)
幹事単会は練馬家族会と決まりました。

「西ブロック相談員養成講座を振り返って」

松原のり子

3月11日(土)午後、標記の学習会が世田
谷区立総合福祉センターで、8家族会から19
名の参加を得て開催されました。40畳ほどの
会場はなんと和室。でも高齢者でも大丈夫なよ
うに座椅子や低い椅子が用意されており、温か
い陽ざしの中で和やかに始まりました。途中2
時46分には、全員で東日本大震災の犠牲者に
黙とうをささげました。

伊藤千尋先生の「“ていねい”な相談活動に
ついて考える」と題しての講演では、「ほんと
うの”聴く”とは、その人の心の疼き、心の震
えに触れて、身じろぎもできなくなることに、そ
してそれにとことん身をさらすこと」「良い相
談とは相談する人も相談を受ける人もお互い
に安心できること」など先生の精神障害者と家
族に対する深い思いが語られました。先生は
「全家連」や「みんなねっと」の相談員として
もこのような姿勢で対応してくださったのだ
と思いました。

後半では2つの事例について活発な討論が
繰り広げられました。多くの参加者がいろいろ
な角度から意見を出し合い、お互いに学ぶ点が
多かったと思います。皆さんが生き生きと自分
の意見や感想を述べる姿に、6年間の養成講座
の継続の力を感ずりました。

平成28年度第2回多摩地域ブロック会議

都連理事 中住孝典

3月4日(土)府中市ふれあい会館で午前の
家族相談員養成講座に引き続き午後行われま
した。21単会27名の参加でした。

都連からの報告として①交通運賃割引に関
する取組②心身障害者医療費助成制度の請願
署名の取組③都連リーダー研修会④家族会実
態調査⑤「東京つくし会」50周年記念行事に
ついてなどが報告されました。なかでも心身障
害者医療費助成制度の請願署名の取組は12月
から1月にかけてという短期間の中で署名数
が13、166筆と多く集まり、東京都議会本
会議で全会一致の採択につながりました。皆の
思いが実り本当にうれしく思います。今後、予
算の裏付けも含め実施に向けて対都要望活動
の展開がさらに必要になることも確認されま
した。

協議事項としては都連の安定した財政基盤
の確立に向けて活発な意見交換がなされまし
た。現在の会費制度に対する現状と課題、そし
て改善策についての提案、各単会の財源を含め
た運営状況の報告、法人化に向けての提案など
具体的で前向きな意見が活発に出されました。
出された意見を活かしながら都連の安定した
財政運営につながるよう今後も議論を深めた
いものです。

ひだまりの会（足立区）を訪問して

都連会長 眞壁 博美

3月19日（日）の午後、定例会に呼んでいただきました。当日は、4月中旬ぐらいのぽかぽか陽気でした。会場は、東武伊勢崎線「竹の塚」駅東口から徒歩5分の「地域活動支援センターふれんどりい」です。昨年11月の東ブロック交流会に訪問した時は、古い建物でしたが、隣りに新築された建物に引越していました。

家族・当事者あわせて16名の参加でした。

まず、東京つくし会の主に「マル障」請願活動と今後の運動について報告し、質疑をしました。その後は、「地域における家族会とは」と題して、「立川麦の会」の28年のあゆみについて話しました。

特に強調したのは、家族会活性化のためには、まず、委員会の活性化が必要ということ。役員が役員会にきて良かった、楽しかったと思えることが一番大事なこと。役員会で、自分の愚痴をきいてもらったり、困り事を相談できること。そして、みんなで活動方針を話し合っただけなら、役割分担をしていくことです。役員自身が体調を崩したり、家庭の事情で役員会に出られなくなっても、他の役員みんなでカバーするという体制を作っていくことが、とても大切だと思います。私の話の後には、自由な意見交換をしました。

家族会の高齢化問題が話題になりました。

「立川麦の会」でも同じ問題を抱えています。定例会は、土曜の午後で、仕事をしている人も出やすいように考えていますが、若い会員は仕事をしているの、仕事をリタイアしている人が役員として頑張っています。親子の距離のとり方など様々な話題が出て大変勉強になりました。「ひだまりの会」の皆様、ありがとうございました。

三鷹市精神障害者家族会「あおき会」を訪ねて

都連副会長 川崎洋子

青空に太陽がまぶしいほどの3月16日、訪問しました。三鷹駅からバスで10分位の市役所前で降りました。この市役所の敷地内には議事堂棟、本庁舎をはじめ、公会堂、体育館、福祉会館などが隣接されていて、三鷹市の市政の中心部です。ちょうどお昼時で、敷地内には職員や市民の行きかう姿がありました。

会場は福祉会館でした。すでに会長、役員の方々がきておられ、会場の準備をしておられました。この会には本人の参加も有り、一人出席されていました。

テーマとしては、会長から家族会の現状、特に全国の様子など話してほしいと言われていました。

どこに行っても出てくる課題は、①会員が増

えない②役員のみなり手が。いない③高齢化の3点セットです。そこをどうやって乗り越えるかを「みんなねっと」「つくし会」は取り組んでいるのですが、難問です。

ここで思い起こすことは、家族会の役割です。全家連ができた当初、同じ悩みを持つ者同士の支え合いが、一番の役割とされました。ひとりで悩んだり苦しんだりしなくても、みんなで一緒に考え、生きていこうということが家族会の原点です。そこから、辛い現状を変えるための活動が生まれ、そのための学習も役割に加えられました。

家族会の例会では、参加者ひとりひとりがいまの思いを話し（時には吐きだし）、みんなで共感してあげることが何と言っても必要です。偏見の中で、孤立化してしまう家族にとって、家族会はなんととっても味方の集まりで、ここで元気をもらうのです。

現状の家族会の活性化のことを考えなくてはなりません。まずは家族会の灯を点し続けることです。そうすることによって家族会を訪ね、そして助かり元気に成れる人が居ることを考えると、何とかやっていこうという気力がわいてきますね。高齢化と言われますが、私たち家族は知恵袋をたくさん持っています。

経験という知恵を武器にして、現状を乗り越えたいと思います。

東京都の精神障害者雇用支援について

都連副会長 川崎洋子

東京障害者職業センター（以下センター）では、毎年2回精神障害者雇用支援連絡協議会を開いています。委員は就労支援をしている精神科医、東京経営者協会、東京労働局、東京産業保健総合センター、家族会とセンターから7名の参加で行われています。

3月8日に開催された協議会では、28年度の取組状況が説明されました。利用状況では、精神と発達を分けて数値がだされ、全体の3分の1が発達でした。

職業準備支援事業の利用者は発達は精神の2倍の利用者で、ジョブコーチ支援事業では、6か月後の職場定着率では、過去3年、発達が精神を上回り、90%になっているのは驚きでした。精神と発達の職能の違いがあると思いますが、30年度から法定雇用率に精神が算定されますが、精神特に統合失調症の人の職場定着が課題だと考えました。

経営者側からの「統合失調症の人は苦情が多く、あまり雇いたくない」の発言があり、苦情は本人の思いであり、聞き届ける体制ができれば、定着につながることを家族会として強調しました。そのためにセンターで実施している企業支援として就労支援課題セミナーの充実した開催が必要となっています。

講演会のお知らせ

☆5/13(土)障害者と事件一偏見・差別を考える

講師：毎日新聞論説委員 野沢和弘氏
会場：新宿区立障害者福祉センター
主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788

☆5/13(土)精神障害がある人たちの地域生活と家族の役割

主催：西多摩虹の会 ☎090-1882-0306
場所：イオンモール日の出イオンホールB
講師：日本障害フォーラム(JDF)副代表、きょうされん専務理事 藤井克徳氏

※参加申込み・お問合わせは主催者までお願いします。

☆賛助会費☆

若松 富美様 10000円
天沼 澄子様 20000円
ありがとうございます。

おかげさまで28年度の賛助会費は、

個人 (一口2千円) ..	300000円
団体 (一口5千円) ..	150000円
病院 (一口1万円) ..	400000円
診療所 (一口5千円) ..	1410000円
計226,000円となりました。	

心の病に悩む人たちの医療と福祉の改善を求める活動に取り組んでいる本会は、都内の家族会それぞれが会費収入の中から納められる年会費によって賄われており、この賛助会の収入は貴重な財源になっております。つきましては、ぜひ本会の賛助会員になって頂きたい、何口でも結構でございますのでよろしくお願い申し上げます。

編集後記

もし私が天才だったら、私の子も天才になれたかもしれない、と思ったことがありません。

でも、親が天才だからといって、すべての子が天才になるわけでもなさそうです。

1921年にノーベル物理学賞を受けたかのアルバート・アインシュタインの次男エドワードは青年期に精神障害を発症し、スイス・チューリッヒ精神病院で入院を繰り返していました。

1933年に米国籍を得て米国東部のプリンストン大学へ移ったアインシュタインは、そこでエドワードの具合を一生案じ続けたと伝えられています。再婚したエルザも米国へ移った3年後に亡くなり、晩年のアインシュタインは、単身で寂しく暮らしていたといわれています。

ニューヨークから高速バスで1時間程度で着けるプリンストンで、晩年の20年をひとりで過ごしたといわれ、そこには現在も木造2階建ての家が保存されています。

当方も天才でないことを嘆かず、努力こそが自分を高める力だと自らを慰めています。

都連理事

塚本邦之

